

兵庫版「自殺予防教育プログラム」実践のヒント

対 象となる校種



コアプログラムは**中高生**、
エントリープログラムは**小学生**です

コアプログラムは、中学生・高校生を対象に、
エントリープログラムは小学生を対象に活用で
きるよう、内容や活動を構成しています。

コアプログラム 中学校から高等学校

エントリープログラム 小学校

ショートプログラム 小学校から高等学校

▶▶▶ 「ショートプログラム」は、自殺予防につながる「下
地づくりの授業」として活用できます。全校種で利用
できます。

リ スクの高い子どもへの配慮



アンケートの活用と
校内体制づくりが重要です

アンケート結果にリスクを示す子どもがいたら…

- まずは個別で話を聞きましょう。
- 一人の教職員で対応しようとせず、協力体制を
つくりましょう。

▶▶▶ しっかと寄り添いながら話を聞き、子どもの様子を
把握してください。

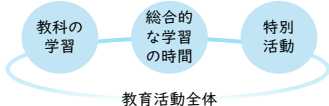
▶▶▶ 緊急対応に備えて、校内体制や専門家との連携を
進めてください。

教 育課程の位置付け



学校の実情や子どもの実態に
合わせて実施します

自殺予防教育を生徒指導・教育相談・キャリア教育
・健康教育・道徳教育を横断する重要課題と捉
え、教科の学習をはじめ教育活動全体を通じて
展開することが望めます。



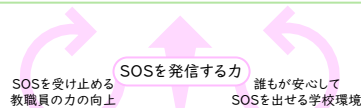
▶▶▶ 「早期の問題認識(心の危機に気付く力)」は、保健
体育科の授業で実施したり、総合的な学習(探究)
の時間等を活用したりすることが考えられます。

校 内での共通理解



事前の教職員研修を実施します

全ての教職員を対象として校内研修を実施し、
SOSを受け止めるための基礎的な知識とスキ
ルを向上させることが大切です。



▶▶▶ 子どもたちが心の危機に気付いて発信したSOSを、
教職員が確実に受け止めることが大切です。そのた
め、自殺予防やプログラムについて、校内で共通理
解を図ることが必須です。

校内での実践をサポートします!

兵庫版「自殺予防教育プログラム」の実践に向けて、

- 専門家による自殺予防教育に関する理論編の解説動画の提供
- 「コアプログラム」実施の際に参考になる授業解説動画の提供
- 指導主事による校内研修のサポート

詳しくは兵庫県立総合教育センターのWebページを御確認ください。

兵庫県立総合教育センター



兵庫版「自殺予防教育プログラム」

自殺予防教育の導入に向けて

学校で進める自殺予防教育は
子どもたちが「未来を生きぬく力」を
身に付けることを支える教育です



兵庫県教育委員会

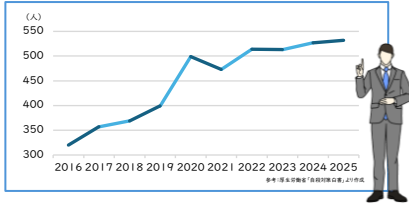


Webページはこちら

自殺予防教育の実施に向けて

なぜ自殺予防が必要？

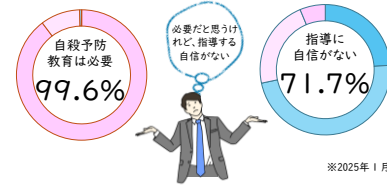
全世代の自殺者数は減少
 ← 児童生徒の自殺者数は増加傾向



学校には、全ての子どもを対象とする「自殺予防教育」と、自殺の危険の高い子どもへの直接的支援としての「危機介入」を並行して進めることが求められています。

学校での実施は不安…

アンケート結果※では…
 ほとんどの教職員が「自殺予防教育は必要」でも、7割の教職員は「指導の自信がない」



校内研修等で教職員の共通理解を図り、役割分担等を決めて実施することが大切です。体制づくりや校内研修に役立つ情報を、兵庫版「自殺予防教育プログラム」に掲載しています。

子どもたちが自殺予防教育を通じて身に付ける力は何ですか

自殺予防教育で身に付く力 → 「早期の問題認識」と「援助希求的態度の促進」

「早期の問題認識」(心の危機に気付く力)

心の病・心の危機の理解やその対応の促進

心の危機のサインを理解し、心の危機に陥った自分自身や友人への関わり方を学ぶ

「援助希求的態度の促進」(相談する力)

子どもが自他の心の危機に気付いたときの適切な対応

一人で抱え込まずに、相談できる大人に伝える大切さを理解する

子どもたちが心の健康について正しく理解し、困ったときに(困らないように)相談することができるようになることで、自殺予防に限らず、生涯にわたる心の健康(メンタルヘルス)の保持につながると考えられます。



自殺予防教育の実践に役立つ

兵庫版「自殺予防教育プログラム」

があります



兵庫版「自殺予防教育プログラム」

プログラムの構成

理論編	知識理解と体制づくりや実施の流れ等の実践モデルの例示
コアプログラム	自殺予防教育の「核となる授業」の2時間分の授業案
エントリープログラム	自殺予防教育の「下地づくりの授業」として活用できる2時間分の授業案
ショートプログラム	自殺予防教育の「下地づくりの授業」として活用できる活動例



Webページはこちら



コアプログラム

ロールプレイや話し合いなどの活動によって、子どもたちが自分事として考えられる内容となっています

『こころのSOSを発信しよう』

〔援助希求的態度の促進〕

【授業の流れ】

- ① 相談をするロールプレイを行う
- ② 相談後の気持ちの変化について考える
- ③ 身近な相談機関について知る
- ④ 援助希求のキーワード「きょうしつ」を知る



『こころの苦しさを理解しよう』

〔早期の問題認識〕

【授業の流れ】

- ① 心の危機のサインと心の病について知る
- ② 「心理的視野狭窄」について知る
- ③ 相談を受けるロールプレイを行う
- ④ 「誰にも言わないで」と言われたときを考える
- ⑤ 大人につなぐための方法を知る



早期の問題認識
 援助希求的態度の促進

下地づくりの授業

安全・安心な学校環境

心の健康保持

不安や悩みの対処の仕方

思いや考えを表現する力

コミュニケーション力

※参考：文部科学省「生徒指導要綱」より作成

『考えよう!心と体』

- 心と体は相互に影響し合っていることに気づき、心の健康保持には適切な対処が必要であることを学ぶ

『なやみを聞いて』

- 他者に相談する体験を通して、話を受け止めてもらえる心地良さを実感し、相談することへの抵抗感を減らす

『話を聞かせて』

- 聞き方の理解と受容される安心感等を醸成する

『どんなのできるかな』

- 絵画で表現する活動を通じて他者理解を促す

『どっちがいい?』

- 価値観の違いを認め合うことの大切さに気付く

『4つの線の物語』

- 他者と協働して活動することの楽しさを感じる

エントリープログラム

ショートプログラム

コアプログラム実施の流れ

コアプログラムの活用方法例です。既存の校務分掌や委員会等を活用しつつ、校内の実施体制を整えます。

兵庫版「自殺予防教育プログラム」実行委員会
 企画・立案・統括等

事前アンケート
 個々の子どもの様子の把握等

教職員研修会
 自殺予防に関する共通理解等

授業実践
 コアプログラム

事後アンケート・検討会
 個々の子どもの様子の把握・今後の取組の検討等

